

市の木
「イチョウ」



いなぎ

広報



ホームページ <http://www.city.inagi.tokyo.jp/>
 携帯電話版 <http://www.city.inagi.tokyo.jp/i/>
 (左のバーコードを読み取り機能付き携帯電話で読み取ってください)

ごみ特集号

問い合わせ 環境課
 ごみ・リサイクル係
kankyoku@city.inagi.lg.jp

発行 東京都稲城市 編集 秘書広報課広報広聴係 〒206-8601 東京都稲城市東長沼2111 ☎042-378-2111 042-377-4781

ごみの減量と分別にご協力ください

私たちの生活が便利で豊かになり、大量生産・大量消費という経済活動や生活様式が普及した結果、現在地球規模でさまざまな環境問題が深刻化し、私たちの生活に影響を及ぼしています。これまでの使い捨てという考えを改め、ごみの発生を抑制し、ごみも資源であるという意識が欠かせません。市のごみ排出量は市民の皆さんのご協力により、減少する傾向にあります。しかし、せっかく減量を実現できても、資源の分別を怠ると、ごみはまた増えてしまいます。今後も、一時的ではなく持続的にごみを減量することで、環境負荷を低減していくことが課題となります。

市ではさらなる減量をめざして、市民の皆さんにごみ減量の減量や紙ごみの分別など、もう一度身近な事、できる事から取り組んでいただきたいと思います。

19年度市収集ごみ・資源物年間排出量

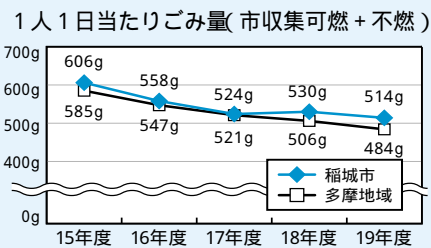
19年度市収集ごみ・資源物の年間排出量は右表のとおりです。

可燃ごみ	13,655 t
不燃ごみ	1,481 t
粗大ごみ	314 t
資源物	4,050 t
有害物	29 t
合計	19,529 t

多摩地域平均との比較

19年度の市の1人1日当たりごみ量(市収集の可燃・不燃ごみ)は514gでした。

ごみ袋有料化導入前の15年度のごみ量と、19年度のごみ量を比較すると、15.2%の減量をすることができました。



家庭ごみの中身を調査しています(組成分析)

市では家庭からどんなごみが出されているか把握し、これからのごみ減量や分別の計画を立てるため、組成分析という調査を毎年行っています。

1月に行なった結果、可燃ごみの中では生ごみが約4割と一番多く、次に紙類が約3割となっていました。(図1参照)

この可燃ごみにはリサイクル回収できる雑がみなど資源物も含まれていました。

具体例 ダンボール、紙パック、雑誌、ちらし、包装用紙類、OA用紙、衣類

不燃ごみではプラスチック類が約4割で一番多く、次いで金属類、ガラス類となっていました。(図2参照)

図1 可燃ごみ

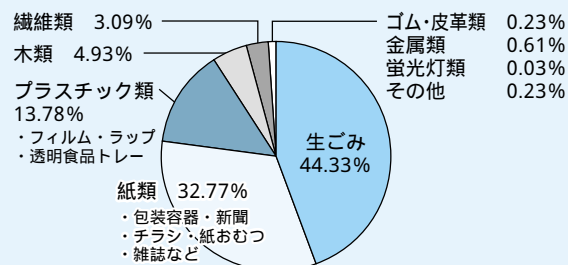
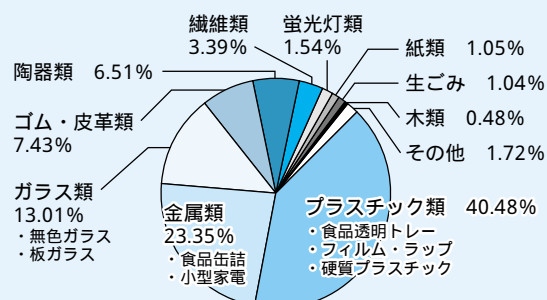


図2 不燃ごみ



生ごみの水切り(減量化)をお願いします

家庭から出る生ごみの重量の約7割を水分が占めています。嫌な臭いの元となるだけでなく、水分が多いと焼却する経費と時間がかかり、余計なCO₂の排出の原因にもなります。生ごみを出す時は、水分を十分切ってから出すことで、可燃ごみの減量と処理経費の軽減につながります。家庭でできる身近なところからのごみ減量にご協力をお願いします。

水切りの基本は、まず最初からぬらさないことです。また無駄な生ごみが出ない買い物や調理方法を実践し、水切りネットなどを上手に使用すると、数段、減量効果がアップします。



家庭でできる生ごみ減量の実践方法例

- 生ごみを水にぬらさない
 - 野菜は洗う前に皮むきをする。
 - 乾いている生ごみ(皮やしん)はぬらさないよう、他の野菜と別にする。
- 乾かしてから出す
 - ぬれた野菜、お茶がら、ティーバッグなどは、三角コーナーからすぐにごみ袋に入れずに、一晩置かない紙の上で乾燥させてから捨てる。
- 買い物や料理を工夫する
 - 賞味期限切れの食品が出ないように、買いすぎに注意して、計画的かつこまめに買い物をする。
 - 買った材料を使い切るように心掛ける。
 - 食べ物を大切に、食べ残し、使い残しをしないようにする。
 - 今まで捨てていた野菜の皮も、なるべくひと工夫して料理に使い、生ごみが発生しないようエコクッキングを実行する。
- 水切りネットを上手に使う
 - 水切りネットに入れただけではまだ生ごみに水分が残っているので、ごみ袋にあける前に、もうひと絞りしてから捨てる。
 - 次のように絞り方の工夫をし、効率よく水切をする。
 - 直接手で絞れない場合は、手袋を使う。
 - 空き瓶などの底を使って上から押す。
 - 水切り用の道具を使用して絞る。



紙ごみの分別の徹底をお願いします

(雑がみは古紙として分別回収しリサイクルできます)

分別の種類

再生の用途が違うため、次の4種類に分別してください。

ダンボール、新聞紙、紙パック、雑誌・ちらし・その他雑がみ(パンフレット、お菓子の袋、はがき、包装紙など名刺サイズ以上のもの)

雑がみは紙袋などに入れて出してください。

古紙として出せないもの

写真、感熱紙、ノンカーボン紙、ビニールコート紙、防水加工紙、汚れや臭いが付いた紙、シュレッダーにかけた紙



19年度ごみ処理経費

ごみ収集運搬費が約2億円、中間処理費(焼却費)が約7億7千万円、最終処分費(エコセメント化費用)が約1億円、その他経費(指定収集袋作成、販売経費など)が約8千万円、資源回収・処理費が約2億5千万円、合計約14億円でした。



18年度と比べると、ごみ処理経費が6%削減されました。

資源物の集団回収補助金制度をご利用ください

資源物は市の回収の他、地域団体による資源回収が行われており、回収実績に応じ市から補助金が支払われています。地域団体は、自治会、子供会、PTAなど現在約50団体が登録しています。ぜひ利用してください。

19年度の年間回収量は1,765tでした。そのうち約9割が新聞、雑誌、ダンボールなどの紙類と繊維類でした。

対象
一定の要件を備え、あらかじめ市に登録を行った団体が補助対象となります。

補助対象の資源物
古紙(新聞紙、雑誌、ダンボールなど)、古布、金属(鉄、アルミニウムなど)、ビン類、食用廃油その他有価物
回収日や品目は各団体で任意に決めて頂きます。

ペットボトル回収品目が拡大されました

法令の改正により、4月から以下のペットボトルもリサイクルできる資源として位置付けられたため、市では従来からのペットボトルの回収品目に加えしました。

20年度版ごみ・リサイクルカレンダーにも掲載しています。
回収可能なペットボトルの例 しょうゆ、みりん、めんつゆ、食酢、浅漬けの素、ノンオイルドレッシング
焼肉のたれ、油性ドレッシング、ソース、化粧品など簡単な洗浄で汚れや臭いが落ちないものは、資源物として回収できません。



剪定枝チップ化事業について

家庭の庭などから出た剪定枝を車搭載型破砕機を使用して細かくチップ化し、堆肥などにリサイクルしています。

会場設営日(前週の金曜日)に立て看板を設置しますので、作業日(火曜日)の午前中までに剪定枝をお持ちください。

作業日程と会場は問い合わせてください。また、市ホームページに掲載しています。持ち込みできない物

草、落葉、竹、笹、樹木の根
キョウチクトウ、アセビ、ウルシなど毒性のある樹木
建築廃材、材木、腐食した樹木



小石やごみが破砕機に入ると故障の原因となりますので、持ち込まないでください。破砕できる寸法

剪定枝の太さは直径8cm以内、長さは2m以内をお願いします。束ねるときは、麻ひもなどを使用し、ビニールひもは使用しないでください。

発泡スチロール、トレイ回収について

市では市役所、平尾・若葉台出張所、各文化センター、総合体育館、リサイクルショップなど市内29カ所に専用の回収ボックスを設置し、発泡スチロールやトレイを回収しています。しかし、下記のようにリサイクルできないものが混入されるなど、マナーが悪い状況が見られます。

間違えて混入されていた物の例
汚れのついた発泡スチロール、トレイ
専門店(鮮魚、青果店など)から持ち込まれた発泡スチロール
弁当・惣菜・カップ麺・卵の容器など
発泡以外の緩衝材(ビニール製やスポンジ状になっているもの)
回収対象外の資源物(缶、ペットボトル、紙パック)

効率のよい回収作業を継続していくためには、皆さまの正しい分別排出が必要となりますので、ご協力をお願いします。
出し方 ラベルをはがして洗い乾かした後、回収ボックスに入れてください。また大きな発泡スチロールはできるだけ細かく砕いて袋に入れてから出すようにしてください。

なお、スーパーなどの小売店で店頭回収を行っているところもありますのでご利用ください。



専用の回収ボックス

生ごみ処理容器・処理機の購入助成

生ごみは、可燃ごみの約4割を占めています。

市では、ごみ減量対策として、家庭から出る生ごみの自家処理を促進するため、生ごみ処理容器・処理機の購入費の一部を助成しています。これらを利用して、生ごみを減らしてみませんか。

購入した方にアンケートを実施しましたが、「今後も継続して使用していきたい」という回答が多くありました。

助成対象となる生ごみ処理容器・処理機
コンポスター
くうたくん
電動生ごみ処理機

対象品名	設置場所	使用方法・特長	購入場所	助成額
コンポスター	畑、庭など	容器を10cm程度地中に埋め込んで固定し、枯葉や腐葉土と一緒に生ごみを入れる。微生物で分解され、一杯になったら容器を移設し、生ごみを完熟させ堆肥として使う。	J A東京みなみ 稲城支店	3,000円
くうたくん	室内、ベランダなど	消化酵素とおが屑を適合した基材を使い、1日2〜3回程度よくかき回す。酵素の力で分解され生ごみが減容される。	稲城市リサイクルショップ	3,000円
電動生ごみ処理機(メーカー、販売店は問わない)	室内、屋外	代表的な処理方式にバイオ式と乾燥式がある。 バイオ式 微生物が入った発酵基材の中に生ごみを入れ、発酵が促進されるよう内部で羽根を回転させ、かくはんする。 乾燥式 電機ヒータの温風で生ごみの水分をかくはんさせながら乾燥させる。発酵基材は不要	家電量販店など	購入額の2分の1(上限10,000円)

購入前に環境課へ購入申請書の提出が必要です。購入申請書は環境課、平尾・若葉台出張所で配布しています。

まちの美化は、あなたが主役 第34回稲城市環境美化市民運動 7月27日(日)に実施

7月27日(日)、環境美化市民運動推進本部の主催で第34回環境美化市民運動が実施されました。

可燃ごみ42トン、不燃ごみ2トン、粗大ごみ2トン、その他6トン、合計52トンが収集されました。

市内全域で8,360人の方が参加され、まちの美化とともに、地域のコミュニケーションが図られました。



今年の清掃活動の様子

夏休み親子でごみ処理施設見学会 8月6日(水)に実施

8月6日(水)に市内の小学生を持つ親子を対象に、「夏休み親子でごみ処理施設見学会」を行いました。

当日は33人の方が参加し、市内のクリーンセンター多摩川と日の出町の最終処分場を1日見学して、ごみ処理の流れと仕組みについて勉強しました。



最終処分場での勉強の様子

マイバッグを持参しレジ袋を断りましょう

日常の買い物と環境問題は密接に関係しています。

レジ袋は私たちにとって身近で便利な容器包装のため、多量に消費されていますが、レジ袋の原料はポリエチレンなどの合成樹脂で、石油から作られるプラスチック製品です。

国民1人あたり1年間で300枚近くのレジ袋を使用していると言われ、そのほとんどがごみとして捨てられています。レジ袋を使わなければ、その分の石油資源を節約できます。

また、その製造過程ではCO₂が発生し地球の温暖化の要因ともなっています。

買い物では「マイバッグを持参し、レジ袋を断る」。このちょっとした心掛けと行動が環境にやさしいライフスタイルの1歩となります。私たちの思いがごみの削減と地球温暖化防止に生かされます。まず始めてみましょう。

